



第671号
令和3年5月23日
題字は二代真柱様
大阪市北区池田町13-17
天理教はるのひ分教会
TEL・FAX
06-6358-2630

読者プレゼント
はるのひ館



▶はるのひホームページ▶
▶QRコード▶
▶お読みください▶
▶毎月発行▶
▶毎月1日▶
▶毎月10日▶

『ウイルスが明らかにしたこと』

ウイルスについてはまだまだ分からないことが多い中で、それにしても細胞にどんなふうに取りついて侵入するか？
テレビの映像で分かりやすく解説されているように、かなり明らかになってきましたね。

またワクチンが最初の情報ではずいぶん時間がかかるように伝えられていましたし
その効き目もたいていの場合あまり当てにできないと聞いていましたが

わずか一年ほどで開発され、しかも大変有効だとの結果からすれば

改めて科学や医療の発達は、近年とくにめざましいなあと感心、敬服し心から感謝します。

それにくらべて個人や家庭、社会や国家の対応はどうでしょう？

危険を知らされているのにまったく無視して罹患しまわりにうつしたり

人々を守るべき立場にあるのに、非常態勢を取らずに多くの人々を犠牲にしたり

運命共同体の人類として、ともに一致協力して一刻も早くこの危機を克服しなければならないのに

戦争や内乱に明け暮れ、抑圧や差別を繰り返して悲劇に悲劇を重ねています。

人間のわが子をも同じこと

恐（こわ）きな道を案じる

それ知らず皆いちれつは銘々に

皆うつかりと暮らしているなり

おふでさき第七号9

おふでさき第七号10



四月月次祭祭典講話

会長 芝太郎

『一日一回おさづけの本について③』

ラインを見ながら参拝して下さっている方々も含めて、皆さん、こんにちは。本当は教祖御誕生祭の月で一際賑やかにさせてもらうところですが、感染が蔓延している状況なので多くの方々にはお家で控えております。ごく少数の人だけでおつとめをとおさづけしてもらいました。この大阪市は現在、日本中で一番感染の広がっている場所です。だから色分けすると日本中で大阪が真っ赤になる。最も危険な所に教会があるわけです。

自分を持て余すか、使いこなすか？

では、いつものように信仰の勉強をさせて頂きましょう。

このところ初代会長の『一日一回おさづけ』の本を目安にお話しさせて頂いておりますが、きょうは先に結論を申しま

すと、自分を持て余すか自分をちゃんと使いこなしているか、自分を使いこなすにはどうしたらよいか。それを初代会長夫妻の通った道を参考にしながら考えてみたいと思います。

例えばボールを渡されて、このボールを使いこなせるかどうかです。野球とかソフトボールとかいろんなボールがありますが、特にあのラグビーのボールなんか楕円形をしているから持つだけでもなかなか難しい。

ストライクを投げるように、自分を使いこなしてるかどうか。例えば、嫌なことを言ったりされたりすると、私たちは気持ちを乱しますね。腹を立てたり憎んだり恨んだりして、それは八つのほりりと教えられますが、自分を持て余してるとではないかと思う。そのきっかけは確かに誰かかも知れませんが、でもあくまでそれはきっかけであって乱れたのは自分の心なんです。自分の心を持て余してしまう。ラグビーボールをちゃんとつかめないように、自分を持て余している状態なんですね。もしも自分を使いこなしているならば、どんな人がどんなことを言っても気にならない、気にしない。

「人が何事言おうとも、神が見ている気をしずめ」（みかぐらうたー四下り目一つ）

教祖は自分の心を乱さないように、どんな事を聞いてもどんなことがあっても、我が心は我が心で治めていくようにとそれを教えて頂いたのがこのお道です。

母親を取るか、胎児を取るか？

父と母のこの本を読んでいると、心を乱されることがいっぱい起こるんですよ。まずは病気です。父は喘息になった、その後肺結核になった、母は私を産んだ後、あるいは次の弟を産んだ後産褥熱になって、体に水がいっぱい溜まって咳をするだけで水が溢れ出るような苦しみ、喘息も肺結核も産褥熱もどれも命に関わる病気をしました。普通はもう心は乱れますよ。何で私たちだけこんな苦しみをしないといけないのか、何でこんな嫌な辛い目をしないといけないのか、もうどうしていいか分からない。八つ当たりしてもいいわけですよ。多少はあったかも知れない、しかし結果的に父も母もそんなに心を乱すことなく自分の道を一生懸命通ってくれた。それはどうしてでしょうか。

その後も布教して生活がなかなか大変です。私と弟が生まれて男の子が二人生まれました。育てていけないといけない。子育てをしながらしかもいろんな人を預かったりいろいろな人

を世話させてもらったりして心が乱れることが次から次へと押し寄せる。けれども父母は喧嘩もしないですね。決して自分を持って余さず、むしろ自分をすっかり使いこなしておつとめであったり、においがけであったりおたすけであったり、神様のご用に一生懸命打ち込んだ。だからたった十年でこの一等地に土地が手に入って、そして教会ができて本部から二代真柱様をおいで頂いて教会を開いた。そんなことができる。これも自分を持って余してたらそんな結果はとてもしやないができません。自分の心を使いこなして見事に使いこなして、まあ今の大谷選手のように打ってはホームラン、投げては相手を三振させる。見事にボールを使いこなす。自分を持って余さないで自分を使いこなした結果なんですね。これがお手本です。それを書き残してくれたのがこの本です。どんなことを言われてもどんなことに出会っても心を乱さないで、なすべきことをしていく、してはいけないことはしない。父と母はなぜ自分を使いこなすそんな通り方ができたかと言うと、これが教祖がおられたからです。教祖が通るべき道を、悟るべきことを教えて下さったから。

たとえば母は産褥熱にかかって、その時に次の子がおなかの中に宿っていた。お医者さんも助産婦さんも、どちらかを

取りなさいと。母親を取るか赤ちゃんを取るか、両方は無理ですよ。その時に父と母とは相談した。どう答えたかと言う

と私は神様が守って下さると思う、だから何もしません。自然のままに神様にお任せします。父もお前がそう言うんやったらもう何もしないでおこう。お前も子も明日どっちも亡くなるかも分からん。嫁さんも亡くなりおなかの中の赤ちゃんも亡くなる。どっちも亡くなるかもしれない。あるいはどちらかが助かるかもしれない。それは分からん。人間の手を加えないで神様にお任せして、そして自分のなすべき事はおつとめであり、ひのきしんでありにをいがけである。父はその時修養科の先生をしていました。だから修養科の講師に行つて、帰ってきた後、お助けに回っていた。一生懸命だったでしょう。それはね、自分を使いこなしてるんです。普通だったら、私だつたらもう心は千々に乱れてどうしよう。嫁さんと赤ちゃんどっちを取るか、そんなこと言われてどっちも失うかもしれないし、赤ちゃんはもう処分するしかない降ろすしかない。その程度しか自分としては考えられませんか。心が千々に乱れてそういう判断すらできないかもしれない。もうやけになって、一生懸命頑張っているのにこんな事になるなんて、神さんなんかいない。信仰なんか何の値打ちもない、

と心は千々に乱れる。僕だつたらそうなりかねませんつまり自分を持って余してしまう。

きつかけは病気なんです、結局はそれをどう受け止めるかが大事なんで、受け止めきれない自分を持って余してるだけなんです。普通はそうなんです。おそらく誰でも自分を持って余してしまう。そして自分を持って余す人が一人おつたら周りの人も影響を受けてその人も自分を持って余す。怒ってる人がいたらこつちも怒りたくなりますよ。腹立ちというのは伝染するからね。悪いほこりはウイルスのように感染します。一人の人が自分を持って余したらみんなも自分を持って余すんです。人の気持ちを治めることはなかなか難しい。

せめて私は腹を立てないように落ち着いてというふうに、自分を使いこなす人が一人でもいたらその場はやがて治まるかも知れない。これを「誠の人」とおっしゃるんですね。『おかきさげ』の中に、「一名一人の心に誠一つの理があれば、内々十分むつまじいという一つの理が治まるという」とあります。一人の人でもどんと構える人がおつたらやがて治まっていく。会社が倒産するような中でもしだいに治まっていくんですね。

さて、父母が病氣と胎児のことはつらいけれども自然のま

まに任せて、ひたすら神一条、たすけ一条を通っていたら、赤ちゃんが勝手に出てきたんですね。父が修養科の授業の際中に詰所にすぐに帰るようにと知らせがあつて、もう死んだかもしれないと思つて帰ったら、母が産気づいていたんですね。どうしたらいいか、うろたえていたらおぎやおぎやあどと声が聞こえた、覗いてみたら赤ちゃんが生まれてた。もうどうしたらいいか分からないまま病院に電話をして…とあたふたした状況が書かれています。結局のところ母も赤ちゃんも命を助けてもらった。その後もまだまだ病気は治りませんけれどもまあその中で何とか通つた。そういう結果が現れるのはどうしてかと言つと突き詰めていけば、二人が心が千々に乱れるような出来事に遭いながら最後的には心を落ち着けて自分を使いこなした。自分を持って余さなかつた。スライクのボールを投げた。神一条に打ち込んで誰をも憎まない、何にも腹を立てないで通り抜いた。おかげでそういう結果に現れたんですね。

人生に監督・コーチを

この出来事は昭和二十四年のこと、つまり父が信仰を始めてまだ二年しかたつていないのです。どうしてこのような考

え方・生き方ができたのか？

それは教祖を人生の監督・コーチとして、ひたすら学びためしたからではないかと思ひます。自分たちではどうしていいか分からない、幸いにして二人は教祖にご縁があつた。

スポーツで言えば、大リーガーの大谷選手や先日ゴルフで優勝した松山選手のような超一流でも監督やコーチに指導してもらいます。それだけ相談したり教えてもらつたりする人が必要なんですね。人生はスポーツより難しい。毎日のことだし、それが長く続く。やはり、優れた監督やコーチがぜひ必要です。そうでないと、つい自分を持って余して小難を大難にしてしまふ。自分を使いこなして、運命をよりよく導いていくには自分だけでは頼りない、心もとない。やはり優れた監督・コーチに師事しなければなりません。世の中に教えはたくさんありますが、お道ほど優れた教えを知りません。ぜひ教祖に人生の監督・コーチになつて頂いて、自分を使いこなしていきたいと思ひます。今月もありがとうございました。



この写真の作成

☆お知らせ☆

☆5月26日(水) 9時 本部月次祭(祭典後は登殿参拝できます)

☆5月29日(土) 18時 詰所祭(在住者のみにてつとめます)

☆5月30日(日) 別席日(教会を11時出発)

☆6月6日(日) 10時 女子例会・はるのひ会

☆6月13日(日) 9時半 おぢばがえりひのきしんと男子例会(詰所)

☆6月18日(金) 10時 女なりもの勉強会

☆6月20日(日) 別席日(教会を11時出発)

☆6月22日(火) 前日準備ひのきしん、神名流し(夕つとめ後)

☆6月23日(水) 11時 <<月次祭>>

☆6月26日(土) 9時 本部月次祭(祭典後は登殿参拝できます)

☆6月29日(火) 18時 詰所祭(在住者のみにてつとめます)

☆夏のこどもおぢばがえりや学生会はすべて中止となりました

☆9月23日(木・祝) 初代会長夫人20年祭(月次祭祭典後)

☆11月23日(火・祝) 教会創立60周年記念祭

☆人生とは、生涯かけての心の成人・自分づくり

☆信仰とは人生観・世界観をみがきつづけること

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○修養科をおすすめしましょう!(毎月、25日までに申し込み)

・若い方=これからの人生の基礎固めとして

・年配の方=人生の美しい集大成のために